

学校評価シート

<p>東海市立加木屋小学校</p> <p>住所 東海市加木屋町編笠9番地 電話番号 0562-32-2207 児童 654名 校長名 新美 勲 26学級 (内 特支5)</p>		<p>校訓「元気で 仲よく 真剣に」</p> <p>○ 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 心もからだも たくましい子 思いやりの心もち、礼儀正しい子 よく考え、自ら学ぶ子 <p>○ 地域の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域行事が盛んで、学校と地域コミュニティ、保護者の連携が図られている。 				
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和6年2月13日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
<p>真剣に</p> <p>よく考え、自ら学ぶ子</p> <p>・意欲をもって学習に取り組み、ともに高め合い、確かな学力を身に付ける子の育成</p>	<p>基礎基本の定着</p>	<p>・アンケート</p> <p>児童 2 授業は楽しく、よく分かる 教職員 2 よく分かる授業を実践している 保護者 2 先生は分かりやすい授業をしている</p>	<p>「授業が楽しく、よく分かる」と90%を超える児童が回答しており、特に、「よくあてはまる」と回答した児童は昨年比、10ポイントほど数値が増加している。また、保護者でも「教員は分かりやすい授業をしている」と感じている数値が増加している。ICT機器を利用した研究が3年目を迎え、取組が定着してきた成果であると考えられる。学力調査の結果の分析や毎日の授業についての反省をもとに、更に満足感・成就感のある授業を目指すことが必要である。</p>	<p>児童の主体的な学習の実現に向け、授業研究・教材研究に取り組み、引き続き、楽しく分かりやすい授業を目指す。ICT機器の利用に関する研修によって得られた知識や技能を更に磨き、充実させることにより、時間的なロスや児童の思考が遮断されることがない形で学習が進められるように質的向上に努める。また、家庭と連動して学習習慣を確立させ、基礎基本の定着を図る。</p>	<p>児童の「授業が楽しい、わかる」の回答から児童の理解率は昨年度より上昇しており、高い水準にあると考えられるため、先生はわかりやすい授業をしていると思う。新しい手法も取り入れながら、楽しく、わかりやすい授業となるよう努めていただいているが、児童、保護者に一定数のマイナス評価があることや、一人一人の進み具合は違う様子もあるので、細やかな声掛けや適切な支援により、更なる改善をはかり、家庭とともに基礎基本を身に付けてさせてほしい。</p>	<p>ICT機器について、更に研修を深め、より効果的な活用ができるように工夫を重ねていく。教務主任及び研究主任が中心となって校内研修を実施し、力量向上を目指す。また、基礎基本が定着するように分かりやすい授業づくりを進める。さらに、学力検査等の結果を適切に分析し、個々に応じた支援ができるように家庭と連動して指導にあたる。</p>
	<p>意欲的な学習への取組</p>	<p>・アンケート</p> <p>児童 4 授業や家庭学習に進んで取り組んでいる 教職員 4 児童は意欲的に学習に取り組んでいる</p>	<p>「授業や家庭学習に進んで取り組んでいる」と回答した児童は90%で、昨年度と比べ、多くの児童が高い学習意欲をもって取り組んでいることが分かる。教職員アンケートでは100%手ごたえを感じており、特に「よくあてはまる」の回答が50%となり、数値が昨年の2倍となっている。コロナ禍の影響も一段落し、取り組める学習方法や手段に成果がみられた結果であると考えられる。</p>	<p>学習の質を高められるように、児童主体の学習を進め、自ら意見を持ち、お互いに高め合えるような授業づくりを推進していく。ICT機器やタブレットも、児童の学習意欲を持続させることができるように、更に利用の仕方を工夫する。研修の場を設定し、更に有効に活用できるようにしていく。</p>	<p>先生方は様々なICT機器を授業に取り入れており、研鑽を積み重ねていると感じる。児童もICT機器の活用により、学習意欲が飛躍的に上昇しており、過去5年間で最高の数値である。今後も維持したい。ただ、児童の約10%に否定的な回答がある。それを軽視することなく、更なる改善をはかってほしい。また、視力などの健康被害やインターネット上に潜む危険さも指導してほしい。機器の活用以外に、本を読むこと、字を書くことは必要なことだと思うので、大切にしてほしい。</p>	<p>高学年の一部教科における教科担当制、算数の少人数授業、T Tを継続し、授業の質的向上を図る。担任が、一人一人の児童の良さ、努力を認め、自身で達成感や成就感を味わえる学習、また、子どもたちがお互いに教え合ったり、認め合ったりできる学習の実現を図る。ICT機器の有用性を十分に吟味し、児童が意欲的に取り組む授業づくりを進める。</p>
<p>仲よく</p> <p>思いやりの心もち、礼儀正しい子</p> <p>・挨拶の意義を理解し、自ら進んで元気に挨拶することができる子の育成</p>	<p>挨拶ができる子の育成</p>	<p>・アンケート</p> <p>児童 5 地域や学校で進んで挨拶している 教職員 5 根気よく挨拶の指導をしている 保護者 5 子どもはしっかり挨拶できている 地域 2 しっかり挨拶ができている</p>	<p>挨拶については、児童で「よくあてはまる」と回答した数値は10ポイント近く増加している。「自分から進んであいさつをしている」と回答した児童、保護者ともに微増している。教職員は昨年同様、挨拶の指導について積極的に取り組んでおり、意欲的に挨拶できるようになってきたことを評価している。しかし、地域住民の挨拶に対する評価はやや低いため、挨拶の大切さや意義を考えさせ、積極的に働きかける更なる取り組みが必要である。</p>	<p>すべての児童が積極的に挨拶できるように、職員が自ら進んで挨拶することで手本となるよう取り組む。また、「かぎやあいさつ運動」などの従来の取り組みを継続して進めていく。更に、家庭・地域との連携を更に深めるとともに、学校では、児童会や委員会の活動も活性化させ、意欲の高揚を図る。</p>	<p>高学年の子たちが、はつらつと挨拶ができているので、低学年の子たちもその姿を見て取り組んでいるのではないかと感じた。「あまり当てはまらない」の数値を減らすために、児童の自覚をもたせる取組や仕掛けができるとよいと思うとともに、家庭・地域との連携の方法の検討が必要だと思う。家庭、学校、地域で挨拶をするという習慣が生まれ、犯罪防止につながり、災害の時にも声を掛け合う気持ちが生まれていくとよい。コロナ禍から抜けて、さらに周囲の人とのつながりについて見つめなおし、実践していく必要がある。</p>	<p>学校生活における様々な場面や学活、道徳等の時間を有効に活用し、粘り強く、繰り返し、挨拶の大切さについて伝えていく。教職員が自ら積極的な挨拶を行い、子どもたちの自然な挨拶習慣づくりを目指す。また、「かぎやあいさつ運動」の取組は継続し、更に地域との連携をさらに深め、挨拶のできる子どもたちの育成に力を入れる。</p>
	<p>思いやりの心の醸成 異学年交流(チャレンジ)活動</p>	<p>・アンケート</p> <p>児童 6 優しい言葉や思いやりのある行動をとっている 教職員 6 いじめのない集団づくりをしている 保護者 6 いじめのない学校づくりをしている</p>	<p>いじめのない学級づくりに対する児童の回答は、「よくあてはまる」の数値が64%となり、昨年度より20ポイントほど増加している。また、教職員の数値は、昨年度とほぼ変わらない状況である。しかし、保護者の数値は微減しており、児童との意識の差が気になるところではある。本校の特色でもある異学年交流のチャレンジ活動を活発にさせるとともに、道徳の学習や取り組みを更に充実させていくことが必要である。</p>	<p>いじめ撲滅に向け、アンケートや教育相談活動はもちろんのこと、日頃の声かけを充実させ、未然防止と早期発見につなげていく。家庭、地域との情報交換などの連携をいっそう進めていく必要がある。また、児童の授業を充実させるとともに、道徳会などを活用し、学校にいじめを許さない風土を醸成したい。</p>	<p>児童の値が飛躍的に上昇していることから、いじめのない学校づくりをしていると評価できる。しかし、「まったく当てはまらない」の数値が、児童と保護者で2%程度あること、思いやりのある言動が取れていないと回答している児童が約7%あるので、更なる改善をはかってほしい。誠意のある対応が問われていると感じる。子どもたちを大切に、そこに向かっ問題解決できるよう、周囲の先生方と協同しながら向き合っていくしてほしい。</p>	<p>いじめは絶対に許さないという強い姿勢で臨む。道徳の授業はもちろん、教育相談や日々の声かけにより、子どもたちのコミュニケーションを密にし、いじめの早期発見につなげるとともに、常に機会をとらえて指導する。保護者に対しては、学校だより等を通じ、学校での取組を啓発するとともに、情報発信を進めていく。</p>
<p>元気で</p> <p>心もからだもたくましい子</p> <p>・自他の命を大切にし、自ら安全な生活に心がけることのできる子の育成</p>	<p>規則正しい生活習慣</p>	<p>・アンケート</p> <p>児童 8 規則正しい生活をしている 教職員 8 規則正しい生活を指導している 保護者 8 規則正しい生活を身に付けている</p>	<p>「規則正しい生活をしている」と回答した児童は、昨年度に比べ10ポイント以上増加している。保護者も、「よくできた」と回答した数値が昨年度を上回る結果となっている。学校保健委員会や「にこにこチェック」などで生活習慣を向上させられるように啓発を進めていることが成果につながったのだと考えられる。</p>	<p>アンケートの結果に安心することなく、教職員が常に高い意識を持ち取り組んでいく必要がある。現在取り組んでいる「にこにこチェック」や「保健だより」、等による啓発・指導資料の活用も継続したい。また、学校保健委員会も適切な課題を設定し、よりよい生活を送ることができるように指導を</p>	<p>規則正しい生活のためには、家庭での指導が重要。にこにこチェックはよい取組だと思うので今後も続けてほしい。保護者がより指導しやすくなるような方法を検討し、周知できるとよいと思う。今後様々な方法で家庭を巻き込んで学校保健をさらに充実させてほしいと願う。食育も定期的に行っていたことができる子どもたちの健康意識の向上に役立っていると感じている。</p>	<p>規則正しい生活の定着のため、養護教諭との連携を深め、複数の教員からの働きかけができるように高い意識で指導にあたる。にこにこチェックは、生活・健康についてより意識が高くなるように継続し、また、保健だより等を活用して家庭への連絡を密にし、保護者との連携がさらに強固なものになるように工夫していく。</p>
	<p>命を大切にし、安全に生活できる子の育成</p>	<p>・アンケート</p> <p>児童 7 安全に気を付けて生活している 教職員 7 安全に生活しようとする子を育成している 保護者 7 学校は安全に生活できるよう配慮している 地域 3 学校は安全に生活できるよう配慮している</p>	<p>児童、教員、保護者、地域住民とも、「あてはまる」の割合が80%を超えており、高い水準を維持している。特に児童の回答では、「よくあてはまる」の数値が56%から73%へと大幅に増加しており、意識の向上が感じられる。ただ、登下校時のけがもやや目立つことから、安全に対する意識が低下することのないよう更に取り組む必要がある。</p>	<p>家庭・地域と連携を図り、不審者、地震など多様な課題に取り組む。校内では、登下校も含め、けがに対しての危機意識を高め、安全に生活できるよう働きかける。また、KYT(危険予知トレーニング)の取組を更に充実させ、児童の安全意識を高めていく。</p>	<p>命を大切に、事故などのない安全確保、事件に巻き込まれない意識を育ててほしい。KYT登校は継続的、更に拡大していく。また、不審者や地震など多様な状況に対応できるように取組を更に充実させ、児童の安全意識を育てるとともに、地域との連携も深め、自らの命を大切にすることを培っていく。</p>	
<p>地域連携</p> <p>信頼される学校づくり</p>	<p>愛校心、郷土愛</p>	<p>・アンケート</p> <p>児童 1 学校が好きだ 教職員 1 誇れる学校である 保護者 1 よい学校だ 地域 1 よい学校だ</p>	<p>児童の「学校が好きだ」の回答では、昨年度と比べ8ポイントほど増加しており、学校に対して肯定的な考えをもつことができている。しかし、保護者や地域住民の結果を見ると、保護者が3ポイントほど、地域住民が14ポイントほど数値が減少している。子どもたちにとって更に魅力のある学校となるよう、学校、保護者、地域が丸となって学校の教育活動に努めたい。</p>	<p>学校生活が児童にとって楽しいものとなるように、異年齢交流やクラブ活動など各種活動のさらなる充実を図る。家庭や地域の学校に対する期待と信頼の高さに応えられるよう、家庭・地域とのいっそうの連携を図っていく。</p>	<p>一人一人が自分の居場所を見つけ、思い出に残る行事、学習を通してよい学校生活を送ってほしい。学校を好きではないと回答した児童のあることを軽視せず、改善をはかり、すべての児童が楽しく学校に来られるようにしてほし。異年齢交流を6年間を通して経験させていただき、得られるもの大きさを感じた。</p>	<p>一人一人が活躍する学級・授業・行事作りを通して、児童が自分の居場所を見つけ、居心地のよい学校となるように取り組む。また、加木屋小学校の魅力を地域に向けて発信することで、地域と連携することの大切さを保護者からも子どもたちに伝えられるように工夫する。</p>
	<p>地域との連携</p>	<p>・アンケート</p> <p>地域 4 児童が地域の活動に参加している 地域 5 地域と学校が連携している</p>	<p>児童の地域活動の参加について、80%の方が「あてはまる」と回答しており、数値は微増となっている。しかし、地域と学校の連携に関しては、昨年度より数値が大きく減少した。これまでコロナ禍により地域の行事が開催できなかったことから、地域との連携について希薄になった部分がある。今後、情報発信も含め検証する必要がある。</p>	<p>学校支援協議会を軸に、行事や総合的な学習などにおいて、ボランティアなどでの関りを活性化し、地域の教育力を学校教育に生かすことができるように、更に家庭地域に情報を発信していく。地域コミュニティとの連携を更に深め、地域と協働する学校づくりを進める。</p>	<p>今年はコミ運動会もできるなど、コロナ禍で制限されていた地域活動が全開放になり、改めて、地域とのつながりを確認していく年だったと思う。学校、地域、家庭が連携することで、SDG sな世の中を理解することや、それぞれが活性化することを期待する。学校ボランティアの活動を通して、地域とのつながりを保護者も深めていきたい。ブログで活動を発信していただければありがたいが良かった。</p>	<p>校長、教頭が中心となり、コミュニティと連携し、学校からの情報発信を重ねていく。加木屋緑地に関するボランティアやその他地域の活動に参加した児童の感想や活動の様子を児童に伝える場をつくるなど、児童が地域行事に積極的に参加することができるように工夫していく。</p>